

『自然ふれあい講座』をおこないました

本年度「自然ふれあい講座」第6～8回の様子をお知らせします。(第5回は悪天候のため中止しました。)

第6回 実感! CO₂のおもさ(夏編)～あなたが減らせるCO₂ 参加者 16名

8月7日(土) 10:00～12:00 担当:浜田 崇・畑中健一郎・陸 斉
会場;あんずホール(千曲市)

- ◎近年の人為的な地球温暖化の主要原因の1つがCO₂だと言われています。しかし空気中のCO₂は見え触れず臭いもせず、排出量を減らすと言われても実感しづらいのではないのでしょうか。そこで、方形枠とカバンを使ったクイズを交えてCO₂を重さで実感しながら、省エネによるCO₂削減方法を考えました。
- ◎各家庭の1ヶ月のCO₂排出量を、電気・ガス・灯油・ガソリンの使用量から計算しました。その際、各家庭の排出量が、長野県内ではどのぐらいの位置かを、研究所の調査結果から確認しました。各家庭の排出量が多いか少ないかを一日で確認でき、好評でした。
- ◎家庭毎に排出削減目標値を決めました。予め用意した削減メニューカードを使い、どんな対策が実行しやすく効果的かをグループで討議してから、それぞれ削減メニューを決めました。各家庭の削減量と、その時の節約金額をその場で確認しながら、各家庭の省エネ目標値と削減方法を決めました。「計算が楽しかった」「削減できることがまだあった」等のご意見や「主婦にもっと多く参加してもらえばよい」等さまざまなご提案をいただきました。(陸)

主な内容



削減カードで方法を考える



バーコードを使って計算する

第7回 八方尾根の自然～1998冬季五輪から10年 参加者 22名

8月21日(土) 8:30～12:00 担当:須賀 丈・尾関雅章・富樫 均
場所;八方尾根(白馬村)

- ◎北アルプス八方尾根は、蛇紋岩とよばれる特殊な地質のため、亜高山帯の標高にもかかわらず貴重な草原環境が広がっています。ここは冬季五輪当時、自然保護問題でゆれ、その後の取り組みでも注目を集めました。あれから10年あまり。今回は、当時問題になった黒菱平と第1ケルンの間を歩きました。当日は天候にもめぐまれ、カライトソウなどさまざまな花やベニヒカゲ等のチョウを観察することができました。
- ◎冬季五輪が契機となって、夏期の登山道周辺の植生の荒廃にも注目が集まり、地元の方々の手で植生復元などの取組みがなされてきました。その努力が実を結び、植生が回復しつつある様子もみることができました。
- ◎八方尾根には、今も夏場に多くのハイカーがおとずれます。この場所の自然の成り立ちや貴重さを、今後さらに多くの方々を知っていただくための取組みへの期待についても話し合われました。(須賀)

主な内容



鎌池湿原(黒菱平)を歩く



第1ケルン付近で五輪を顧みる

第8回 花と昆虫が描く草原の風景 参加者 17名

9月4日(土) 9:30～12:00 担当:大塚孝一・須賀 丈
場所;車山高原(茅野市)

- ◎晴天のもと、車山高原と白樺湖のあいだに広がる半自然草原を歩きました。
- ◎半自然草原とは、人が適度に利用することで保たれる在来植物から成る草原のことです。全国的に減少が著しく、貴重な自然です。ここでは過去数十年にわたり地元の財産区の方々により春に火入れがされています。以前は馬のまぐさなどとして利用するため、野草がさかんに採取されていたとのこと。
- ◎この日もススキの間にマツムシソウやハンゴンソウ、タチフウロ、アザミ、シラヤマギク、ハギなどが咲き、クジャクチョウ、ヒョウモンチョウ類などの草原性のチョウがみられました。火入れ地に残りやすいカシワの幼木もありました。土の断面の露出したところには、長く草原が火事によって維持された場所に生成される黒ボク土がみられ、草原としての歴史の長さを感じさせられました。
- ◎温暖化によって分布を広げているツマグロヒョウモン(チョウ)や、外来植物のヘラバヒメジョオンなどもみられ、環境変化の影響もうかがえました。(須賀)

主な内容



広大な半自然草原を歩く



眺望がきく草原で解説